

✳️ 金融円滑化に向けた取組みについて

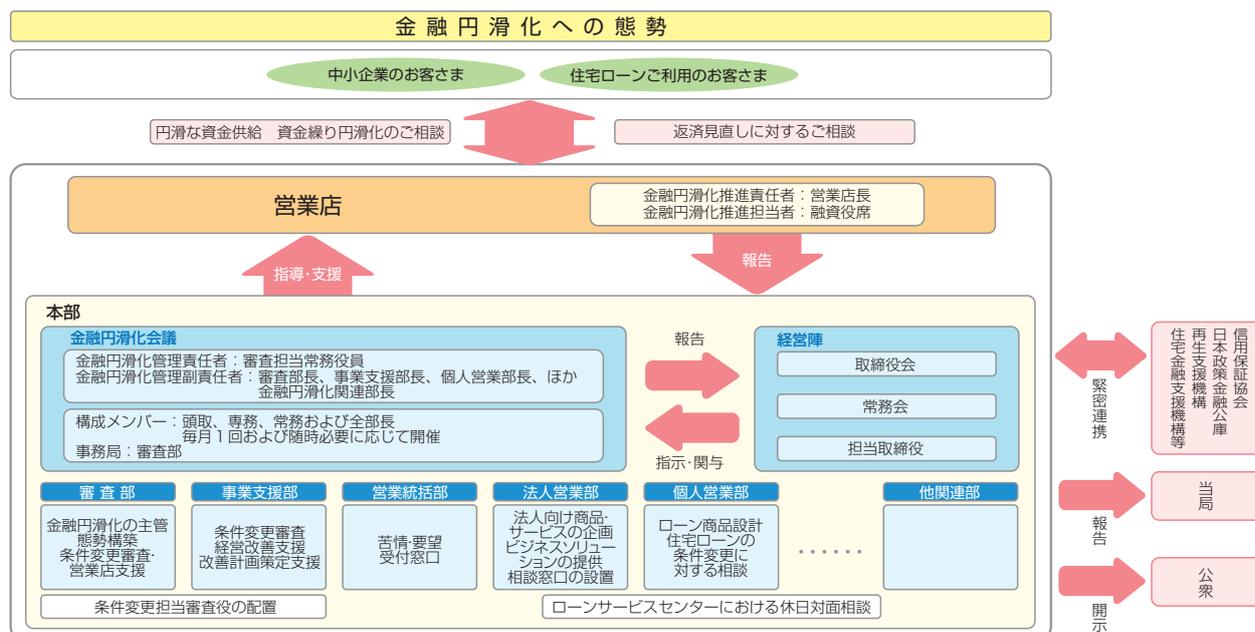
当行は、「十六銀行は金融機関としての公共的使命を遂行することによって地域社会に奉仕する」を基本方針として、地域金融の円滑化を最も重要な責務と捉え、お客さまの資金ニーズや借入れ条件の見直しなどのご要望に対して積極的に取り組んでまいりました。

当行では、従来以上に中小企業者のお客さまや住宅ローンをご利用されているお客さまからの各種ご相談にきめ細やかにお応えできるよう、平成21年12月、本部内に「金融円滑化会議」を設置するなど行内態勢を整備いたしました。

これからも地域金融機関として、適切かつ積極的な金融仲介機能を発揮し、一層の金融円滑化に向け、平成22年1月に制定しました金融円滑化に関する基本方針に基づき、迅速、的確、丁寧な対応に努めてまいります。

✳️ 金融円滑化に関する基本方針 ✳️

- ① ご相談等に対する真摯な対応
- ② 適切な融資審査の実施
- ③ 説明の徹底
- ④ 中小企業者のお客さまからのお申込みへの対応
- ⑤ 住宅ローンをご利用されているお客さまからのお申込みへの対応
- ⑥ ご意見、ご要望および苦情への対応
- ⑦ 条件変更等の実施後のフォロー態勢
- ⑧ 経営実態ならびに成長性および将来性を適切に見極めるための能力の向上
- ⑨ 金融円滑化管理態勢整備
- ⑩ 行内における周知



※「金融円滑化会議」は、経営陣のもと、審査担当部署および法人・個人の営業推進部署をはじめとする全ての部長からなる会議で、地域の中小企業者および住宅ローンのご利用のお客さまに対する金融の円滑化に適切に対応するため、その取組み状況を確認し具体的な対応策を検討・実施するために創設したものです。

「休日相談窓口」「休日返済相談窓口」の設置について

当行は、厳しい経済情勢を踏まえ、お客さまの資金繰り等のご相談にお応えするため、個人事業主や中小企業の皆さまを対象とした「休日相談窓口」、住宅ローンをご利用の皆さまを対象とした「休日返済相談窓口」を設置しております。

地域密着型金融とは

地域密着型金融とは、「金融機関が顧客との間で親密な関係を長く維持することにより顧客に関する情報を蓄積し、この情報を基に貸出等の金融サービスの提供を行うことで展開するビジネスモデル」と定義されています。

平成21年度における地域密着型金融の取組み実績

平成21年4月からスタートした第11次中期経営計画では、「お客さまとの生涯にわたるパートナー関係の構築に向けて、リレーションシップに基づく中長期的な視点での取り組みをしていく」ことを基本方針として掲げ、さまざまな取組みを展開しております。

地域密着型金融の取組みにおいても、以下のような実績をあげることができました。

ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

重点項目	平成21年度の取組み実績
創業・新事業支援への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●民間主導型ベンチャー支援組織「NOBUNAGA21」を活用し、販路・提携先の紹介、助成金制度、プレゼンテーションの場の提供等、個々のベンチャー企業のニーズに応じた支援に取り組みました。 ●平成21年度で5回目となるベンチャービジネス助成金制度への応募に対し、最優秀賞1社、優秀賞2社に助成金を贈呈しました。最優秀賞に選ばれた企業には、当行組成の投資事業組合からの投資を実施し、お取引先の創業・新事業の支援を行いました。
経営改善への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●お取引先が抱える経営課題の解決に向けたコンサルティング機能の充実をはかり、563件のニーズを発掘、これに応じた支援を417件実施しました。 ●近隣他行と連携し、「三行ビジネス商談会」を開催しました。 ・参加企業：573社、商談数：1,187件
事業再生支援への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●経営改善支援取組み対象先162先の経営改善支援に積極的に取り組み、73先について再生計画を策定しました。その結果、12先について債務者区分のランクアップをはかることができました。
事業承継支援への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●後継者問題を抱えるお取引先等に対し、コンサルティングの実施や外部専門家の紹介により、30先のM&Aニーズを把握し、アドバイザー業務の提供など事業承継に向けた支援に取り組みました。 ●近隣他行と連携し、「中部金融M&Aネットワークセミナー」を開催しました。

事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

重点項目	平成21年度の取組み実績
不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●お取引先の事業価値に着目した資金調達手段の提供をはかるなか、お取引先の保有する機械設備に動産担保を設定するなどの融資を取り組みました。 ●お取引先の事業継続に関する産業構造上の特性や拠り所に着目した融資商品「じゅうろく・ものづくり応援ファンド」を設定し、120件、80億円のお取扱いとなりました。
資金調達手法の多様化への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●外部評価会社を活用し、信用保証協会の保証付の棚卸資産担保融資に取り組みました。

地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

重点項目	平成21年度の取組み実績
地域再生・地域貢献への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●産学連携協定を締結する大学の紹介や、国・県などが設置する各種研究機関への打診など、産官学連携のコーディネーターとして、お取引先のニーズに対する支援に取り組みました。 ・大学・高専への技術相談 50件 ・中小企業支援策の活用支援 86件 ●中部経済産業局と共同で「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」に関する説明会を開催しました。 ・来場者：約200人
多様な金融サービスの提供に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●大学や地方公共団体等と連携して、地元の若年層を対象とした金融経済教育を実施しました。 ・愛知大学・高山市教育委員会との連携「小学生のための経済学習」参加数：36名 ・中部学院大学・各務原市教育委員会との連携「かがく・さんすうアカデミー」来場者：約2,000人

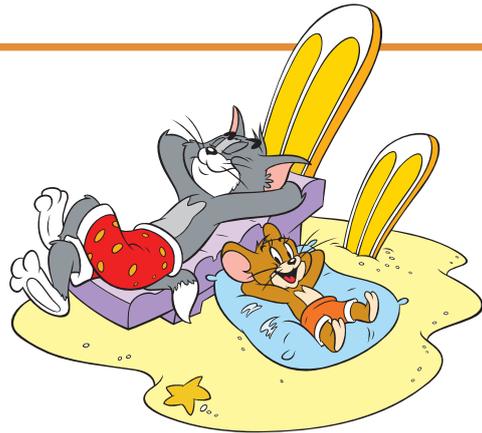
平成21年度における地域密着型金融の推進に関する主要計数

ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

主要計数	平成21年度の実績
経営改善支援取組み率	1.3%
経営改善支援取組み先数（正常先除く）	162先
期初債務者数（正常先除く）	12,487先
再生計画策定率	45.1%
再生計画策定先数（正常先除く）	73先
経営改善支援取組み先数（正常先除く）	162先
ランクアップ率	7.4%
ランクアップ先数	12先
経営改善支援取組み先数（正常先除く）	162先

地域の皆さまとのお取引状況

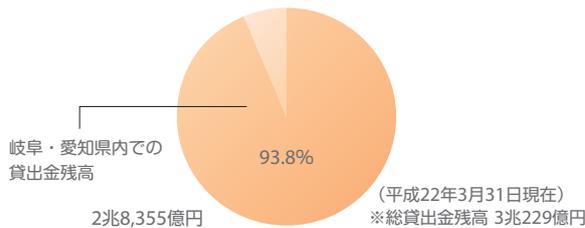
十六銀行は、岐阜県・愛知県を主要な地盤とする地域金融機関として、地域経済の活性化に積極的に取り組み、豊かで住みよい地域社会の実現に貢献したいと考えています。



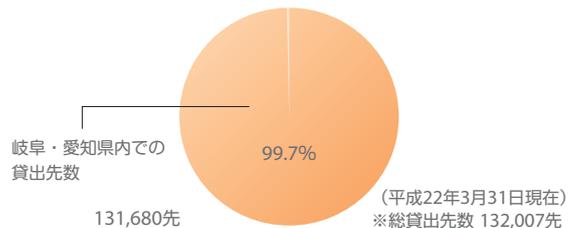
地域の皆さまへの貸出の状況

総貸出金残高に占める岐阜・愛知県内での貸出金残高割合は93.8%、総貸出先数に占める岐阜・愛知県内での貸出先数割合は99.7%です。今後も引き続き、地域経済の発展に貢献できる金融機関を目指します。

❁ 岐阜・愛知県内での貸出金割合
(岐阜・愛知県内での貸出金残高/総貸出金残高)

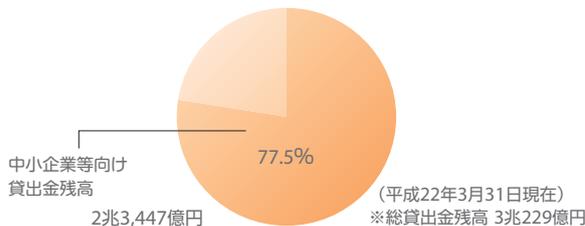


❁ 岐阜・愛知県内での貸出先割合
(岐阜・愛知県内での貸出先数/総貸出先数)

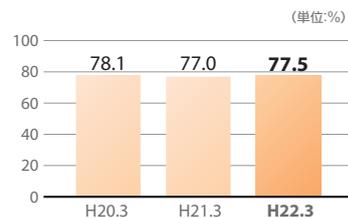


中小企業等向け貸出の状況

❁ 中小企業等向け貸出金割合
(中小企業等向け貸出金残高/総貸出金残高)



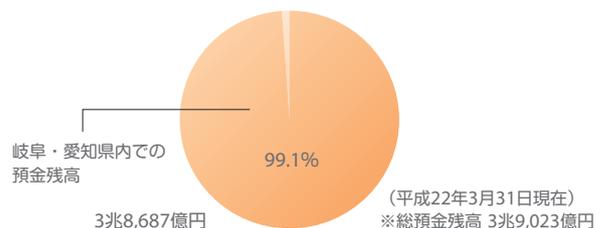
❁ 中小企業等向け貸出金割合の推移



地域の皆さまからのお預入れの状況

平成22年3月末時点での総預金残高3兆9,023億円のうち、岐阜・愛知県内での預金残高は3兆8,687億円であり99.1%を占めています。

❁ 岐阜・愛知県内での預金残高割合
(岐阜・愛知県内での預金残高/総預金残高)





地域の皆さまとのお取引状況一覧

(平成22年3月31日現在)

貸出金残高(億円)	
総貸出金残高	30,229
岐阜・愛知県内での貸出金残高	28,355
岐阜・愛知県内での貸出金残高割合	93.8%

中小企業等向け貸出金残高(億円)	
貸出金残高	23,447
貸出金残高割合	77.5%
岐阜・愛知県内での貸出金残高	23,019
岐阜・愛知県内での貸出金残高割合	98.1%

個人向け貸出金残高(億円)	
貸出金残高	8,115
岐阜・愛知県内での貸出金残高	8,109
岐阜・愛知県内での貸出金残高割合	99.9%

貸出先数(先)	
総貸出先数	132,007
岐阜・愛知県内での貸出先数	131,680
岐阜・愛知県内での貸出先数割合	99.7%

中小企業等貸出先数(先)	
貸出先数	131,493
貸出先数割合	99.6%
岐阜・愛知県内での貸出先数	131,315
岐阜・愛知県内での貸出先数割合	99.8%

個人向け貸出先数(先)	
貸出先数	107,418
岐阜・愛知県内での貸出先数	107,350
岐阜・愛知県内での貸出先数割合	99.9%

預金残高(億円)	
総預金残高	39,023
岐阜・愛知県内での預金残高	38,687
岐阜・愛知県内での預金残高割合	99.1%

信用保証協会 保証債務残高(貸出金のみ、億円)	3,018
-------------------------	-------

業種別貸出金の状況

業種別の貸出先数、貸出金残高および岐阜・愛知県における貸出先数、貸出金残高は次のとおりです。

(平成22年3月31日現在)

業種	貸出先数(先)	岐阜・愛知県での		貸出金残高(億円)	岐阜・愛知県での	
		貸出先数(先)	貸出先数(先)		貸出金残高(億円)	貸出金残高(億円)
製造業	5,474	5,387	5,769	5,086		
農業、林業	238	238	55	55		
漁業	6	6	2	2		
鉱業、採石業、砂利採取業	31	30	32	27		
建設業	3,804	3,801	1,696	1,690		
電気・ガス・熱供給・水道業	63	60	220	202		
情報通信業	238	235	183	139		
運輸業、郵便業	651	634	763	556		
卸売業、小売業	4,904	4,859	3,325	3,172		
金融業、保険業	126	98	762	456		
不動産業、物品賃貸業	3,818	3,771	4,277	3,869		
学術研究、専門・技術サービス業	876	875	272	272		
宿泊業	118	116	281	270		
飲食業	1,227	1,223	246	238		
生活関連サービス業、娯楽業	674	664	678	662		
教育、学習支援業	132	132	62	62		
医療・福祉	1,160	1,155	851	849		
その他のサービス	1,011	1,008	306	305		
地方公共団体	36	36	2,322	2,322		
その他	107,420	107,352	8,117	8,112		
合計	132,007	131,680	30,229	28,355		

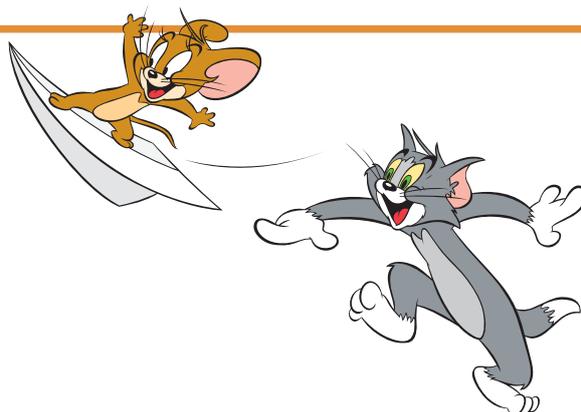
(注) 1.記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

2.日本標準産業分類の改訂(平成19年11月)に伴い、平成21年9月期から業種の表示を一部変更しております。

地域経済活性化活動

豊かで、
活力にあふれた
地域社会づくりのために。

地域社会の一員として、地域の活性化のために求められる、さまざまな活動を行っています。



取引先企業活性化に向けての活動

当行では、取引先企業のさまざまな経営課題に対し最適なソリューションを提案し、企業のライフサイクルに合わせ付加価値の高いサービスを提供するよう努めています。シンジケートローンや私募債等多様な資金調達の方法を提供するとともに、ベンチャー支援組織「NOBUNAGA21」による投資活動、株式公開支援業務、ビジネスマッチングや三行ビジネス商談会、M&A業務等、事業の立ち上げから継続的な発展まで、さまざまなライフステージにある企業をサポートする取組みを行っています。

ぎふ地域ベンチャー支援ネットワーク「NOBUNAGA21」

当行は、平成12年12月に、野村證券、有限責任監査法人トーマツと三社で、全国初の民間主導によるベンチャー支援組織を発足し、創業期、発展期の企業、事業家の方々の支援を行い、地域経済活性化に努めています。



「第6回三行（十六・名古屋・百五銀行）ビジネス商談会」の開催について

平成21年9月17日、名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）において当行・名古屋銀行・百五銀行の共同主催による「第6回三行ビジネス商談会」を開催しました。

今回は、三行に日本政策金融公庫のお取引先を加えた約580社の企業が参加し、約1,200件の商談が行われました。

会場では、多くの参加者が限られた時間のなかで自社の会社案内や商品サンプルなどを手に熱心にアピールされており、本商談会に対するお客さまの意気込みの高さがうかがえました。

当行としましては、今後ともお客さまのニーズをいち早くとらえて、皆さまに満足いただけるような取組みを推進してまいります。



PFIプロジェクトファイナンスのシンジケートローンの組成について

当行ではPFI（Private Finance Initiative）事業に積極的に取り組んでおります。PFIは、民間の資金、経営能力および技術的能力を活用した公共施設等の建設、維持管理等を行うもので、当行は「大垣市南部学校給食センターPFI整備運営事業」等の事業に対し、アレンジャー（金融団のとりまとめ）業務を含め参加をしております。



大垣市南部学校給食センター

アグリビジネスへの取組みについて

当行は、平成21年10月5日に「アグリビジネスシンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、農業・食品を取り巻く環境が大きく変化するなか、農商工連携による第6次産業化など、今後の農業の可能性と求められるものについてのテーマで、地域経済の活性化につながる農業について考察いたしました。

また、農業者向け融資商品については、日本政策金融公庫と提携した「じゅうろくアグリサポート」の取扱いを平成21年11月より開始し、多数のお問合せをいただいております。



ものづくり支援

ものづくり支援の取組みについて

当行は、当地区の基幹産業である「ものづくり」へのさまざまな支援に取り組んでいます。

「じゅうろく・ものづくり応援ファンド」を設立し、他行に先駆けて資金ニーズに応需する姿勢を示したほか、平成21年12月11日に、数々の現場を再生してきたP E C産業教育センター所長山田日登志氏を講師に迎え、「ものづくり応援セミナー～ムダをとれば必ず儲かる～」を開催し、現場サイドからのものづくり企業復活への応援メッセージを発信しました。



上海で地銀合同商談会を開催 ～中国ビジネスを支援～

当行は、平成21年12月10日、当行を含む地方銀行8行（当行以外の7行：百五、滋賀、南都、西日本シティ、広島、北國、みなと）と2自治体等（神戸市、社団法人宮城県国際経済振興協会）が合同で、中国・上海市にて「ものづくり商談会@上海（2009 WINTER）」を開催しました。中国に進出している取引先企業の「部品調達・外注先の確保」と「販売先の開拓」支援を目的に、平成17年に地方銀行で初めての中国商談会を開催し、今回は5回目の開催となりました。



「海外ビジネスサポートデスク」が スタート

平成22年2月、お客さまに対する海外ビジネス支援を一層充実させることを目的に、市場証券部内に「海外ビジネスサポートデスク」を設置しました。国内における支援同様、今後も積極的に対応していきます。



環境保全活動

人と環境にやさしい金融機関をめざして。

「温室効果ガスを2020年までに1990年比25%削減」という高い目標の達成に向け、金融機関には大きな役割が求められています。

当行は自ら行う環境保全活動だけではなく、お客さまのさまざまな環境活動を支援することにより地域貢献に努めます。



ISO14001に関する活動

本店ビルおよび事務センターにおいてISO14001の認証を取得し、継続的に環境保全活動を行っています。平成22年3月には、外部審査機関による審査により登録更新が認められました。今後も地域金融機関として環境に配慮した企業活動に努めてまいります。



環境マネジメントシステム審査登録証

環境保全活動の内容と実績

＊省エネルギー、省資源の推進

電力使用量の削減策として6月から9月までクールビズ（夏季の軽装勤務）を実施し、冷房の適温化（28℃）を行っています。また両面コピーの励行やパソコンネットワークの活用などペーパーレス化を進め、コピー用紙使用量の削減の取組みを推進しています。

<電力使用量の推移>



*平成21年度の本店ビルと事務センターの電力使用量はISO活動開始前と比べ、それぞれ28.4%、29.6%の削減となりました。

＊紙のリサイクル推進

各支店や部署から排出される紙類は分別回収を徹底し、再生可能な紙類は製紙会社へ持ち込み、製紙原料として再生されています。

環境対応型金融商品の取扱い

環境対応型金融商品の取扱いを通じて、お客さまの環境問題への前向きな取組みをサポートしています。

「エブリサポート21」の取扱い

事業者向けに環境問題対応支援ローン「エブリサポート21」を取り扱っています。本商品は、低公害車購入の場合、また、太陽エネルギー等の新エネルギー設備、公害防止設備、リサイクル関連設備などを導入される場合、ISOの認証取得する場合等にご利用いただけます。



「排出権信託受益権顧客紹介業務」の実施

平成21年9月からは、「排出権信託受益権顧客紹介業務」を開始しています。本業務は、温室効果ガス排出量の削減目標達成を目指す、排出権の取得ニーズのあるお取引先企業にご利用いただける業務です。本業務を通して、お取引先企業の地球温暖化防止に向けた取組みをサポートいたします。

「じゅうろくエコローン」の取扱い

個人向けに「じゅうろくエコローン」（マイカーエコプラン、住宅エコプラン）を取り扱っています。このローンは無担保、無保証人扱いでハイブリッドカーなどの環境対応型自動車や省エネルギー住宅機器を購入される場合にご利用いただけ、通常の無担保ローンに比べ、お得な金利設定となっています。

「じゅうろく エコチャレンジキャンペーン」の実施（平成21年12月～平成22年1月）

地元岐阜・愛知から環境活動を広げていきたいという思いで、昨年度に引き続き環境保全をテーマに、「じゅうろく エコチャレンジキャンペーン」を実施しました。定期預金などの対象取引をいただいた約32,000人のお客さまが「CO₂の削減」、「ものを大切に使う」、「地産地消」に取り組むことを宣誓され、日常生活のなかでエコ活動を実践していただきました。



グリーン購入の推進

事務用品・広告宣伝品等について、価格や品質だけでなく、環境負荷のできるだけ小さい製品を優先して購入するグリーン購入を推進しています。

環境に関する規制の遵守

環境問題が社会に与える影響は大きく、環境に関するさまざまな法規制等があります。平成22年4月には、エネルギー消費量が増えている業務部門と家庭部門の省エネを推進するために改正された「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」が本格施行されました。

当行はこれに対応するための体制をいち早く整備し、全行をあげて省エネに取り組んでいます。

「日本の森を守る地方銀行有志の会」への参加

同会は、各地方銀行の森づくり活動の情報をネットワーク化することで、日本の森を守る活動を支援することを目的として設立されました。当行を含め地方銀行63行（平成22年5月1日現在）が参加しています。



環境に配慮した店舗づくり

平成21年3月にオープンした緑支店は屋上を緑化しました。



緑支店全景

平成21年11月にオープンした恵那支店では、外壁面に美濃焼クールアイランドタイルを採用するなど、地球温暖化防止に配慮しております。

●美濃焼クールアイランドタイル

表面に角度を付け、太陽光を空に反射することで、ヒートアイランド現象を抑制する効果が期待されます。



岐阜県・愛知県 地球温暖化防止活動推進センターへの寄付（平成21年10月）について

地域の環境保全活動に活用いただきたいと、「エコ定期預金キャンペーン」（平成20年10月～12月実施）にかかる寄付金を岐阜県・愛知県両県の地球温暖化防止活動推進センターへ贈呈いたしました。

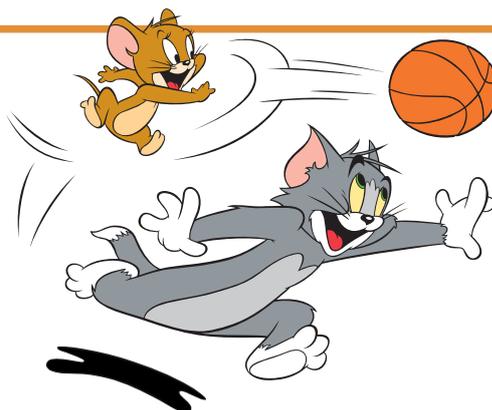
また、情報誌「NEWS あなたwithじゅうろく」にて、エコ活動の重要性についてのメッセージと寄付の実績を記事にし、ご来店のお客さまに配付しました。



社会貢献活動

企業市民の立場から、
幅広い社会貢献活動を通し、
地域社会の健全な発展に貢献。

企業もまた市民の一人であるという
企業市民の立場に立ち
積極的な社会貢献活動を展開しています。



卓球部の活躍

～地域の皆さまに愛されるチーム作りを目指して～

当行卓球部は昭和55年創部以来、皆さまの暖かいご支援のもと地道な努力を重ね、今では日本のトップチームとして認められるまでになりました。

平成24年に開催される「ぎふ清流国体」に向けてジュニア層の強化と普及活動を積極的に行っています。



当行所属スピードスケート選手の活躍

当行所属スピードスケート選手のうち、出島茂幸選手・名取英理選手の2名がバンクーバーオリンピックへの出場を果たしました。

「ぎふ清流国体」に向けてスピードスケート競技の普及活動と、スポーツ振興を通じた社会貢献に取り組んでいます。



「十六銀行地域社会貢献推進委員会」の活動

十六グループ会社役職員が一体となり、地域社会への積極的な貢献活動に取り組んでいます。平成20年4月に「十六銀行栗野グランドサッカー場」を整備し、毎年、11歳以下を対象とした「じゅうろくカップU-11サッカー大会」を開催しています。

このほかにも、「長良川を美しくしよう運動」等の清掃活動をはじめ、「集団献血」ならびに「地域のまつり」等々に参加しています。



公益財団法人 十六地域振興財団の活動

十六地域振興財団は、地域社会への貢献を目的として設立され、地域における産業振興、社会生活環境の整備、文化・スポーツ・国際化などの活動を助成により支援しております。平成21年度末までの助成累計は421件1億5,862万円となっております。

また十六銀行創立130周年を記念して奨学金制度を創設し、平成21年度では36名に対して、1,320万円の奨学金を支援しております。



シニアのための「くるるセミナー」 (岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト)

当行は、岐阜大学と連携し、シニアのためのセミナーを開催しています。もっとも人生を充実させたい、これからも元気に暮らしたいと思われるアクティブなシニアの方々に、健康やパソコン、地元の歴史や身近な自然、音楽や文学など、楽しく参加していただけるセミナーを各種ご用意し、皆さまのシニアライフをサポートしています。

また、セミナーの参加者も平成13年の開講以来、延べ10,000人を超えるとともに、ここから自主的なサークルも多数生まれ、シニアの方々が楽しく元気に活動されています。



～小学生のための経済学習～「愛大・十六トレーディングチャレンジプログラム」の開催について

当行は、産学連携協定を締結している愛知大学と、平成21年7月5日に高山市において小学生を対象とした金融経済教育「トレーディングチャレンジプログラム」を開催しました。

このプログラムでは、児童が9つの「国」に見立てたチームに分かれて、それぞれの国情に合わせて支給される紙（資源）・道具（技術）・所持金を使い紙製品の生産・販売や預金・物々交換（交渉）などの経済活動を模した「トレーディングゲーム」を行いました。

参加児童には、「世の中に流れるモノやお金の価値」のほか、「主体性」・「コミュニケーション」・「協力」・「チャレンジ精神」の大切さも学んでいただくことができ、地域の将来を担う子どもたちの人材育成の一助とすることができました。

今後も継続的に開催することで地域貢献につなげていきたいと考えています。



～中部学院・十六産学連携～「かがく・さんすうアカデミー3」の開催について



当行は平成21年7月12日に中部学院大学と連携し、子ども向け体験イベントである「かがく・さんすうアカデミー3」を開催しました。

今年で3回目となるこのイベントは、地域の将来を担う子どもたちに、楽しく遊びながら科学的・数学的なものの見方に触れる場を提供して、その体験から子どもたちが科学への夢を抱くようになることを目的にしています。当日は同大学のキャンパスを会場として、理科の実験や算数遊びが体験できる20のブースを設置したほか、サイエンスショーや科学自由研究相談コーナーも開き、来場された約2,000人の親子連れに楽しんでいただきました。

JR岐阜駅北口駅前広場に時計塔を寄贈

平成21年9月26日、JR岐阜駅北口駅前広場の完成を祝う記念式典において、高さ8.5メートル・誤差がほとんど生じない（10万年に1秒程度）電波時計の時計塔を寄贈しました。これは、当行の創立130周年記念事業の一環として岐阜市に対して行ったものであります。JR岐阜駅を利用される機会がございましたら、是非ともご覧ください。



「岐阜県がん検診受診率向上に関する協定」を締結

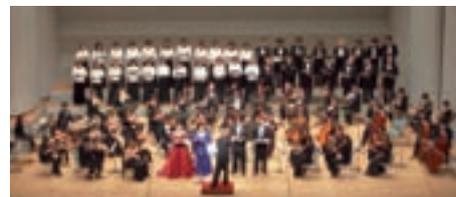
当行は、平成22年1月22日、岐阜県と「岐阜県がん検診受診率向上に関する協定」を締結しました。

本協定には当行以外にも保険会社等数社が参加し、CSR活動の一環としてがん検診受診率の向上およびがんについての正しい知識の普及啓発を、互いに協力、連携しながら行っていきます。岐阜県民の健康増進に寄与する活動を通じて、地域社会の安定、発展に貢献していきます。



「プロムナードコンサート」の開催

地域の皆さまに、芸術・文化に触れていただく機会を提供することを目的として、平成21年12月24日に室内オーケストラ「テレマン室内オーケストラ」のほか、素敵なゲストをお迎えして長良川国際会議場で開催し、700組1,400名をご招待いたしました。



トピックス

半田支店の新設オープンについて

平成21年3月に11年ぶりに新設した「緑支店」(名古屋市緑区)に続き、愛知県下39番目のフルバンキング型店舗として、7月6日に「半田支店」(半田市)を新設オープンいたしました。

店内は、視覚障害者対応ATM、身障者対応トイレ、腰掛け付き記帳台を配置するなど、高齢者の方や身障者の方にやさしい店舗となっています。



あかなべ支店の新築・移転オープンについて

平成21年4月13日、あかなべ支店と中央市場支店を統合し、あかなべ支店を新築移転いたしました。

店舗は、外装をタイル貼、西面に日差しを遮るために大型庇(ひさし)と水平ルーバーを設けて空調負荷を軽減し、CO₂発生の抑制などエコな取組みを実施しています。



恵那支店の新築・移転オープンについて

平成21年11月9日、恵那支店と南恵那支店を統合し、恵那支店を新築移転いたしました。

新しい恵那支店では、「総合案内窓口」を設置し、また「ロビー現金入金機」を導入することにより、ご来店いただくお客さまの利便性向上に努めています。

環境面では、店舗の外壁面に美濃焼クールアイランドタイルを使用することにより、ヒートアイランド現象の抑制をはかるなどしております。



大曽根支店の移転オープンについて

平成22年3月8日に、大曽根支店が移転オープンいたしました。ターミナル駅である大曽根駅近くに移転し、利便性が大変向上しました。

また、店内には、ローカウンターに間仕切りによって独立性を持たせた相談スペースを4つ確保しており、ゆったりとローンや資産運用などをご相談いただけます。



女性CS向上ユニット「JUICES」の発足

女性がCS向上を先導していくために、20~50歳代の女性12名にて女性CS向上ユニット「JUICES(ジュース)」を発足しました。

「JU」は【十六】、「I」は【愛】を意味し、「CS」「ES」の充実をはかり、また、「ジュース」という言葉から、さまざまな年代の女性が瑞々しく、活発に活動するイメージを込めています。

女性の視点で、「接客への気配り」「待ち時間対策」などに対する具体的な解決策を見出すことに努めてまいります。



新しい広告について

当行のブランドイメージの向上を目指し、平成21年10月1日から新しい企業広告をスタートしました。新キャッチコピー「あなたwithじゅうろく」は、当行がいつもお客さまの身近な存在であり、夢の実現をお手伝いしていくパートナーでありたいという想いを込めて制作しました。

